

静観台グループ例会

於：サイエンスフィールド 2004. 1. 14

参加者 三辻（彦崎小）松本（国府小）福井（伊島小）

2004年になりました。今年最初の例会です。冬休み中には生涯学習センターで初等理科教育岡山支部冬季研修会が開かれ、松本先生が『モノと思考をつなぐ回路の学習』というタイトルで第4学年の「電気のはたらき」の実践について発表してくれました。検討途中で2学期の例会が終了し、松本先生一人に任せっきりになってしまい心配していたのですが、始まってみるとさすがは松本先生。最初から参加者に向けて質問を連発し、ハイペースでたたみかけるように語りかけていくプレゼンテーションの巧みさは圧巻でした。また、発表内容も無難に形を整えるのではなく、あえて提案性の高いものにしており、そのことにより午後の質疑応答は意見百出、活発で意義深いものになりました。

【ニモで回路の学習】松本

電気は通り道が「輪」になった時流れる。という回路の学習を人間が手をつないで確かめる『てのひらピカチュウ』という実験道具（おもちゃ？）を以前紹介しましたが、これと同じ様なものがマクドナルドの子供用のセットにおまけとしてついていたそうです。多少感度は鈍いようですが、手をつないで回路ができれば、ちゃんと音がします。



【びっくりカプセル】松本

赤や黄色のカラフルな薬のカプセル状のものをカップに入れお湯を注ぐとアレ不思議！ もこもこと大きくなりスponジの昆虫のできあがり！ おそらくスponジはオブラートの様なものでカプセルの形に固めているのだと思います。3年生の昆虫の学習の時にこれを見せ、昆虫の特徴から正しいかどうかを話し合わせてみるのもいいかな…。



【弓曳童子】福井

昨夏、国立科学博物館で「大江戸博覧会」という催しがあり、ヘロンの噴水やエレキテル、時計など江戸時代の面白い機械類が多数展示されていたのですが、なかでもカラクリ人形の実演がたいへん興味深かったです。その中に弓曳童子という小さな人形がありまして、ゼンマイを巻くと矢を一本取り弓につがえ、弦を曳いて矢を放ち1mほど離れた的に見事に当てる。しかも一度だけでなく何度も連続でこの動きを続け、百発百中なのだからスゴイ。人形の手と矢と弓はそれぞれ独立したものだし、矢は本当に弓を曳くことで飛んでいる。一体どういう仕組みなのかなと不思議に思っていたら、学研の『大人の科学』で発売されました。福井は作るのが面倒なので完成版（1万5千円）を買いました。



【作文・感想文の書き方、おいしそうな作文】松本・三辻

前回の例会に「作文の指導をどうするか」という話題があり、時間割の中に書写や図書と同様に作文の時間を書き込んで教師自身を追い込んでおくという方法が紹介されましたが、では、その時間に何をどう指導するかという具体的な方法が松本先生と三辻先生から出されました。松本先生のは1時間ごとのワークシートで起承転結などの構成や表現方法が身に付いていくというもの、三辻先生のは子供達が五感をフルに使って書いた「あつあつのラーメンの汁がほとぼしるような」作品です。